

平成26年度 事務事業評価表 A (平成25年度の実績評価)

記入年月日  
平成 26 年 4 月 1 日

事務事業名		歴史資料館運営事業			区分		事務事業No.	30523314		
					<input type="checkbox"/> 分野別主要事業 <input type="checkbox"/> 未来プロジェクト事業 <input type="checkbox"/> 市長マニフェスト事業 <input type="checkbox"/> 合併建設計画事業 <input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 <input checked="" type="checkbox"/> 単独事業 <input type="checkbox"/> 補助事業		課内No.	14		
政策体系		政策体系上の位置付け			主管課		教育委員会			
政策体系	総合計画の施策名	305	文化財の保存・活用			所属部	文化財課 33			
	政策名	3	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり			所属課	文化財課 33			
	施策名	5	文化財の保存・活用			課長名	石川文雄			
	基本事業名	2	文化財の活用			グループ	文化財			
財務会計上の位置付け		事業期間			担当者名		越田真太郎			
予算科目	会計	款	項	目	事業	一般会計				
	1	10	5	4	1	文化財保護事業				
法令根拠	桜川市文化財保護条例				<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し (年度～)		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度～年度)			

[Do] 1. 事務事業の現状把握(その1) ➡ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入

(1) 事務事業の概要・手段・目的・結果と各指標	
手段	① 事務事業の概要(事務事業の内容) 桜川市の歴史や文化を中心にテーマを設け運営している。 1. 常設展 桜川市内の通史的な展示を市内各所からの豊富な出土資料を中心に、重要伝統的建造物群保存地区に選定された真壁の町並みや、登録有形文化財となっている建物などを、古写真や模型などを使って紹介している。あわせてそれらのルーツである中世の真壁氏と真壁城についても出土品や古文書等で紹介している。また、施設が建設された地下から発見された真壁陣屋の発掘成果も展示するとともに、敷地全体に遺跡の跡を表示している。 2. 企画展(年1～2回) 平成25年度実施企画展 ・新収蔵品展 ・近年寄贈・寄託を受けた資料の展示 3. 歴史講座の開催(年4回) 上記事業等に関する講座の開設
	② 担当者が行う業務の内容、実際に行った主な活動 ・企画テーマに沿って資料を収集、研究し、展示する。展示解説パネルおよび解説シート等を作成し、公開する。 ・歴史講座の開催 講師依頼 講座準備(職員担当の場合)
目的	③ 対象(誰、何を対象にしているのか) 真壁伝承館歴史資料館来訪者数
	⑦ 対象指標(対象の大きさを表す指標) ア 真壁伝承館歴史資料館来訪者数 イ ウ
結果	④ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 桜川市の歴史文化の紹介をし、見学者数を増やす
	⑧ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) ア 展示見学者数 イ ウ
結果	⑤ 結果(どんな結果に結び付けるのか) 桜川市の歴史に興味関心を持つ市民の増加、資料価値の再発見をし、情報の共有を行うとともに、眠っている新資料の紹介や収集を行う
	⑨ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) ア 桜川市の文化財、伝統文化・行事を大切にし、後世に伝承していくべきだと思ふ人の割合

(2) 指標値の推移								
区分	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
⑥活動指標	ア 回数	0	2	1	2	2	2	2
	イ 部	0	3,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	ウ 回	0	2	4	4	4	4	4
⑦対象指標	ア 人	0	196,181	190,000	191,000	192,000	193,000	194,000
	イ							
	ウ							
⑧成果指標	ア 人	0	40,002	37,000	40,000	40,500	41,000	41,500
	イ							
	ウ							
⑨上位成果指標	ア %	89.9	89.5	89.8	90.0	90.0	90.0	90.0

(3) 投入量(事業費)の推移		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
事業費	国庫支出金	千円							
	県支出金	千円							
	地方債	千円							
	使用料・手数料	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円	126	782	2,196	1,648	1,658	1,658	1,658
事業費計(A)	千円	126	782	2,196	1,648	1,658	1,658	1,658	
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
	述べ業務時間	時間	676	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
	人件費計(B)	千円	2,055	2,930	2,930	2,930	2,930	2,930	2,930
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,181	3,712	5,126	4,578	4,588	4,588	4,588	
事業費の内訳	25年度事業費 実績(千円)	26年度事業費 予算(千円)	27年度事業費 計画(千円)	28年度事業費 計画(千円)	29年度事業費 計画(千円)	期間限定総投入量			
	講師謝礼	15	15	15	15	15	15	15	
	消耗品費	41	216	220	220	220	220	220	
	印刷製本費	1,497	774	780	780	780	780	780	
	光熱水費	9	9	9	9	9	9	9	
	建物借上料	634	634	634	634	634	634	634	
	合計	2,196	1,648	1,658	1,658	1,658	1,658	1,658	

(4) 当該年度の実施内容		26年度の事業内容	27年度の事業内容	28年度の事業内容	29年度の事業内容
※ 下記に該当する事業は年度ごとの事業内容を記入する					
分野別主要事業 未来プロジェクト事業 市長マニフェスト事業 合併建設計画事業					

事務事業名	歴史資料館運営事業	事務事業No.	30523314	所属課	文化財課
-------	-----------	---------	----------	-----	------

**[Do]** 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？  
 旧資料館は昭和53年の開館以来、旧真壁町、合併後は桜川市の歴史文化にかかわる新たな発見と再評価、専門性の高い展示を公開するため企画した。また、資料館の常設展のみでは、資料のマンネリ化、見学者の減退を招くため、見学者の増加をはかるため年1～2回の企画展を行うこととした。上記の資料館は真壁中央公民館と合わせて平成21年度に解体され、平成23年9月1日に真壁伝承館の一部である歴史資料館として新規開館した。新資料館では市内の文化財を紹介するために新たに常設展示室と企画展示室を設計し、常設展は年2回程度の小規模な展示替えをし、企画展は年2回の開催を行う予定である。合わせて歴史講座なども開催する。

(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？  
 企画展に対しては来館者より好評を得ている。入場者数も増えており、今後もいい展示をするよう求められている。歴史講座についても好評で、市内はもとより県外からの参加者も多く、扱ってほしいテーマの要望が寄せられている。

**[See]** 2. 評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

評価項目	
目的 妥当性	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？) <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 文化財保存・活用につながる
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？)(法定受託事業はその名称) <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 文化財は公共の財産であるため、市が当該事業を行うのは妥当である
	③ 対象・意図の妥当性 (対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？) <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である 資料の活用に必要な事業であり妥当である
有効性	④ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない 周辺市町村との連携をはかることで、桜川市の魅力・独自性を再認識する
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？) <input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 廃止した場合、他に変わる事業がなく、市民の要望にこたえられない
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない 具体的な手段、事務事業名 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる
効率性	⑦ 事業費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)) <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 最低限の事業費であり削減余地は無い。増加が必要である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 (やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？) <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 個別資料の調査、研究、貴重品取扱の知識が必要で、保守安全確認が常に必要のため削減はできない
公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？) <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市民の幅広い要望を踏まえて、文化財の公開を行っており公平である

**[Plan]** 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	展示準備にかけられる時間・人数・事業費が少ないと思われる。特に資料を他市町村等から借りる場合の費用がなく、予算要望をしていきたい。今後は他の博物館・資料館で行っている展示とそれにかかる経費等を調査し、適切な事業運営を行っていくとともに、地域や学校などとの連携を通して、市民からの要望に応えられるような展示等を開催していきたい。																					
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果(終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																					
(3)-1 改革改善策 事業費・担当人員の増加	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持																					
	低下																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 予算確保																						

**[Check]** 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>